

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
織田ファッション専門学校		昭和51年9月1日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2230		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人織田学園		昭和40年10月21日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
服飾・家政	服飾専門課程		ファッションテクニカル科		平成20(2008)年度		令和 3(2021)年度	
学科の目的	服飾に関する専門的学理と技術を教授するとともに、企業で即戦力として活躍できるように2Dから3DCADシステムを使いこなし、さらに実物製作した作品のラインやテクニックに感性を感じられる/パタンナーを目指す。							
学科の特徴 (取得可能な資格、 中退率 等)	アパレル最先端のデジタル技術の習得とお客様相手のオーダーメイド実習で、ファッションを自在にモデリングできるパタンナー・縫製職を目指す。 【取得可能な資格】パターンメイキング技術検定、ファッション色彩能力検定、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、ファッション3Dモデリスト検定など							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いづれ かに記入	2,000 単位時間	669 単位時間	単位時間	1,331 単位時間	単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
60 人	25 人		0 人		0 %	9 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		9		人			
	■就職希望者数(D)		3		人			
	■就職者数(E)		2		人			
	■地元就職者数(F)		2		人			
	■就職率(E/D)		67		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50		%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		22		%			
	■進学者数		5		人			
	■その他							
	(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) アパレル業界(パタンナー、縫製業)								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
当該学科の ホームページ URL	https://fashion oda.ac.jp/academics/fashiontechnical/							
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数					2,024 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					20 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間		
	うち必修授業時数					2,000 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					20 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位時間		
	(B：単位数による算定)							
	総単位数					単位		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位			
うち企業等と連携した演習の単位数					単位			
うち必修単位数					単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位			
教員の属性 (専任教員に ついて記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の 修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					5 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人		
	計					6 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。

2年間を通して服飾造形に必要な基本的技術を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置づけられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
本 多 徹	日本モデリスト協会 事務局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
太 田 みぎわ	WaCCa デザイナー	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
上 島 朋子	株式会社near. パタンナー	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
鈴 木 貴子	学校法人織田学園 理事長 織田ファッション専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
中 宏樹	織田ファッション専門学校 教員	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
関 由貴子	織田ファッション専門学校 教員	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月28日 10:00～11:00

第2回 令和7年3月24日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業との関わり方について、メリットが生み出せないと連携の関係を続けるのが難しくなってくるので、企業にとっても学生にとってもWin-Winな関係を築けるような取り組みを始められると良い。直接会社に赴きプレゼンテーションを行い、フィードバックをもらうことが学生への刺激となり、成長や満足度に繋がり、最終的に就職に繋がれるとのご意見をいただいた。「聞く」だけでなく学生自ら動いて「見る」姿勢を強化し、よりブラッシュアップした企画をできるよう検討している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

感性を豊かにし、クリエイションを表現するための基礎力、売れる商品をデザインするための企画力を養い、アパレル業界の仕組みを理解できる人材を育てるため、企業からの直接指導を受け、現場の厳しさや最新技術等を学ぶことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業に講師派遣を依頼し、担当教員と連携しながら実習を行う。講師の指導の下、学生達がブランドの企画立案、リサーチ、デザイン提案、パターン作成および検討、商品製作、ブランドPR、販売会までの一連の流れを行う。報告会では協力企業に向けて、年間の活動報告を行い評価を受ける。企業等からの評価を踏まえて担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
服飾造形 デザインⅡ (服飾造形Ⅱ)	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企画立案、リサーチ、デザイン提案、パターン作成および検討、商品製作、ブランドPR、販売会までの一連の流れを学ぶ。	株式会社カラビナクリエイション
服飾造形 パターンメイキングⅡ (服飾造形Ⅱ)			
服飾造形 ソーイングⅡ (服飾造形Ⅱ)			
企業コラボⅠ			

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生するため、及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第24回技術研究会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和6年4月20日	対象:	教員
内容	アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和6年4月～(毎月1回)	対象:	教員
内容	パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。		
研修名:	生成AIの教育利用について	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年3月17日	対象:	教職員
内容	AIの進化とリテラシーについて、AIを教育に取り入れていくための実例等を知る。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	社会と教育をつなげる実践型教育に学ぶ	連携企業等:	全国専修学校各種学校
期間:	令和6年11月28日	対象:	教員
内容	社会と学校をつなぐ実践型教育実例として、高-専、高-大、高-社 連携の現場のリアルを知る。		
研修名:	重要・経営課題研修～非認知能力の育成～	連携企業等:	東京都私学財団
期間:	令和6年12月17日	対象:	教職員
内容	非認知能力の具体的な要素や、学校現場で重視される背景、能力を伸ばす方法について、最新の事例を例に教職員が一層の指導向上を図れるよう学ぶ。		
研修名:	人権教育研修～学校における合理的配慮～	連携企業等:	東京都私学財団
期間:	令和6年12月23日	対象:	教職員
内容	合理的配慮の提供が義務化される中で学校に求められる対応すべき事項について、個に応じた学びが保証される環境を工夫できるよう理解と技術の向上を目指す。		

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等: アズマ株式会社
期間:	令和7年	対象: 教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。	
研修名:	技術研究会	連携企業等: 日本モデリスト協会
期間:	令和7年	対象: 教員
内容	連携企業等との研究を通して繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。	
研修名:	弥生会	連携企業等: 弥生会
期間:	令和7年4月～(毎月1回)	対象: 教員
内容	パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	学生カウンセリング研修	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年6～8月(2回)	対象: 教員
内容	学生カウンセリング理論・技法と学校カウンセリングのあり方等に関する研修	
研修名:	就職指導担当者研修	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年8月・令和8年1月(2回)	対象: 教員
内容	多様化する学生の就職活動について～発達障害・グレーゾーン学生の就職活動～	
研修名:	留学生に対する生活指導等講習会	連携企業等: 東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年7月	対象: 教職員
内容	留学生の在籍管理等に関する指導の徹底を図る。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価報告については学校関係者から評価と助言を得て、本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、客観性と透明性を高めるとともに、改善を行い学校運営と教育の質向上を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4)学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5)学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6)教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	数値目標(入学生数60名)は達成できたか
(8)財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9)法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10)社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	留学生受け入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員からいただいた教育環境についての意見を元に、点検・整備を継続的にを行い、必要に応じて機器の更新・入れ替えを積極的に検討していく。学生の受け入れ募集については数値目標を達成するために、授業や在校生のリアルを発信し、本校の特徴が伝わりやすいように工夫している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
内藤 久美	株式会社 辻洋裁店	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
松野 仁美	スタイリスト	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	卒業生
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	有識者委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oda.ac.jp/about/reports/>

公表時期: 令和7年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページやパンフレットによる教育活動や取り組み等の紹介や財務状況などの学校運営について、高校生、在校生、保護者、卒業生、関係者、企業等に最新情報を提供し、学園に対する理解を深めていただくとともに学校運営の透明性を確保し、さらなる企業等との連携および協力の推進を図ることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3)教職員	校長メッセージ、教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6)学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7)学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8)学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11)その他	ファッション学生にインタビュー!、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/>

公表時期: 令和7年6月1日

授業科目等の概要

(服飾専門課程 ファッションテクニカル科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			服飾造形論Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	服飾に関する基礎知識の講義。製作するアイテムに関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	1 年 通 年	64		△		○	○		○		
2	○			服飾造形 デザインⅠ (服飾造形Ⅰ)	製作するデザイン画とイメージマップの製作。	1 年 通 年	15		△		○	○		○		
3	○			服飾造形 パターン メイキングⅠ (服飾造形Ⅰ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。	1 年 通 年	186		△		○	○		○		
4	○			服飾造形 ソーイングⅠ (服飾造形Ⅰ)	基本的な縫製技術の習得。原型・スカート・シャツ・ワンピース・子供服・パンツ・ジャケット・修了作品の実物製作とレポート製作。部分縫い製作。	1 年 通 年	319		△		○	○		○		
5	○			服飾造形 ドレーピングⅠ (服飾造形Ⅰ)	ドレーピングの基礎と原型、タイトスカートのドレーピング。	1 年 通 年	65		△		○	○		○		
6	○			生産管理概論Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	1 年 通 年	9		○			○		○		
7	○			服飾手芸Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展できるように、欧風刺繍のテクニックを学ぶ。	1 年 通 年	10		△		○	○		○		
8	○			CADⅠ	CADの基本操作の習得。ショートカットを使いながら、服飾の授業で勉強した作図をCADに置き換えて早く正確に引けるようになる。	1 年 通 年	40		△		○	○			○	
9	○			基礎デザイン	ファッションデザインに限らず、身の周りのモノも含め『デザイン』を理解する。実習を通し、デザイン技法の理解・習得する。	1 年 前 期	20		△		○	○		○		
10	○			クリエイションⅠ	自分らしさやオリジナリティを見つけ出す。コンテストに入選できるようデザイン画を強化する。	1 年 後 期	16		△		○	○			○	
11	○			スタイル画Ⅰ	スタイル画の基礎、プロポーション、顔、身体などの描き方、平絵、Adobe Frescoの使い方を学ぶ。	1 年 通 年	36		△		○	○			○	
12	○			マテリアルⅠ	被服素材の基礎と服のデザインやパターンとの関連性を解説する。画像や実物の説明から視覚からの認知を高める。	1 年 通 年	34		○		△	○			○	

13	○		カラー I	カラーシステムをもとに、色彩の基礎である色の三属性、光と色、色彩の感情効果等を学ぶ。	1年 通年	40		○		△	○			○	
14	○		ファッションビジネス概論	アパレル業界の仕組みや流れを理解し、商品企画に対する理解を深める。	1年 通年	36		○			○			○	
15	○		西洋服装史	衣服の起源と古代から現代までの西洋服飾の変遷を映像を使用しながら解説。文化、芸術、宗教など様々な歴史との関連を持つ装いを理解する。	1年 後期	20		○			○			○	
16	○		就職講座 I	キャリアセンターに加え現場で活躍する卒業生や内定者、就職支援会社の講師を迎え、現場での業務や具体的な就職活動の流れを学び、就職への意識づけをする。	1年 通年	14		○			○		○	○	
17	○		校外授業 I	学校外へ赴き校内では学ぶことのできない幅広い知識を身につける。また、集団、グループでの行動学習により、協調性を身につける。	1年 通年	28				○		○	○		
18	○		特別講義 I	現場で活躍する講師を迎え、ファッション業界の最新の動向を知るとともに、普段の授業だけでは学ぶことのできない幅広い知識を身につける。	1年 通年	24		○			○		○	○	
19	○		服飾造形論Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	製作するアイテム、素材に関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	2年 通年	30		○			○		○		
20	○		服飾造形 デザインⅡ (服飾造形Ⅱ)	製作するデザイン画とイメージマップの製作。デザインバリエーションの展開。	2年 通年	16		△			○	○		○	○
21	○		服飾造形 パターン メイキングⅡ (服飾造形Ⅱ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。原型からのパターン展開。	2年 通年	218		△			○	○		○	○
22	○		服飾造形 ソーイングⅡ (服飾造形Ⅱ)	工業的な縫製方法、伸びる素材、厚い素材の基本的な知識を学ぶ。	2年 通年	382		△			○	○		○	○
23	○		服飾造形 ドレーピングⅡ (服飾造形Ⅱ)	1年次の基本をもとに応用して学ぶ。原型、ダーツ遊び、ヨーク付きギャザースカート、オーバーブラウス、ワンピース、デザインスカート、ドレーピング。	2年 通年	100		△			○	○		○	
24	○		生産管理概論Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	アパレルの生産システムを学ぶ。市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	2年 通年	10		○			○			○	
25	○		服飾手芸Ⅱ (服飾造形Ⅱ)	1年次の基本をもとに色々な材料で応用する。ビーズ刺繍、くるていんぐ、リボン刺繍のテクニックを学ぶ。型入れの帽子を製作する。	2年 通年	8		△			○	○		○	
26	○		CADⅡ	CADオペレーションの習得。パターンメイキング、仕様書作成、マーキング、管理表作成。	2年 通年	50		△			○	○		○	○

27	○		3DCAD I	CL0の基本操作を習得をはじめとして、レンダリング出力、モーショ設定、生地物性測定など、幅広い技術を身につける。	2 年 前 期	40	△		○	○		○		
28	○		企業コラボ I	リサーチ、企画、デザイン、フィッティングなど企画から生産までの企業の仕事の流れを経験する。	2 年 通 年	18	○			○			○	○
29	○		スタイル画 II	スタイル画の表現力向上。観察に基づいた考察と、それを反復して描く。就職活動に対応できる画力を得ることを目指す。	2 年 通 年	40			○	○			○	
30	○		マテリアル II	1年次の繊維の知識をより深め、服との関係性のバリエーションを高める。	2 年 前 期	20	○		△	○			○	
31	○		カラー II	色彩の基礎知識をもとに調和のとれた配色テクニックを学ぶ。更に個性ある様式美の色彩表現や想像力を活かしたファッションイメージの色彩計画が行えることを目標とする。	2 年 前 期	14	○		△	○			○	
32	○		就職講座 II	キャリアセンターに加え現場で活躍する卒業生や内定者、就職支援会社の講師を迎え、現場での業務や具体的な就職活動の流れを学び、就職への意識づけをする。	2 年 通 年	16	○			○		○	○	
33	○		校外授業 II	学校外へ赴き校内では学ぶことのできない幅広い知識を身につける。また、集団、グループでの行動学習により、協調性を身につける。	2 年 通 年	40	○					○	○	
34	○		特別講義 II	現場で活躍する講師を迎え、ファッション業界の最新の動向を知るとともに、普段の授業だけでは学ぶことのできない幅広い知識を身につける。	2 年 通 年	22	○			○		○	○	
35		○	ゼミナール衣裳 I	衣装について講義と実習を通して学ぶ。	2 年 後 期	24	△		○	○			○	
合計					35	科目	2024 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目は全学生が履修する。自由選択科目は任意で履修する。		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。